学校番号	103

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	詳説世界史Ｂ（山川出版社）						
副教材等	最新世界史図説　タペストリー（帝国書院）、総合マスター世界史Ｂ（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・人名や用語、事件や地名などの語句を丸暗記することを目指すのではなく、概念としてとらえることを目標にしてください。
・勉強法の前提としてですが、入念に予習を行い、授業に集中してしっかり取り組むことがまず肝心です。授業の内容をその時間でしっかり理解すれば、復習に時間を割く必要はなくなります。その為にも、予習する時間を大事にしましょう。
・予習の仕方ですが、教科書を読んで全体の流れを押さえましょう。語句や年号を覚えることに時間をかける傾向がありますが、それよりも「概念」をとらえることが重要です。
・復習の仕方ですが、授業の担当者がどのような説明を行っていたか、その時自分はどんなことを考えていたかを思い出すようにしましょう。語句の説明や意味を暗記することに時間をかける傾向がありますが、授業にどのように臨んでいたかを思い出して、自分の学び方を反省する時間にしましょう。

2　学習の到達目標

・世界の歴史への興味・関心を高め，主体的に探究していく態度を身につけます。
・世界の歴史の大きな枠組みと流れを，地理的条件や日本の歴史とも関連付けながら理解します。
・文化の多様性と現代世界の特質を多角的かつ広い視野から考察し，歴史的思考力を培います。
・世界史についての資料を適切に選択し，資料に基づいて考察した結果を適切に表現する力を身につけます。
・現代社会が直面する諸課題について，歴史的観点から考察し，主体的な追究を通して認識を深めます。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・世界の歴史に対する関心を高め，文化の多様性と現代世界の特質，現在の世界の諸課題について主体的に追究している。	・世界各地の諸事象について，地理的条件や日本史とも関連付けながら考察している。 ・世界史を，時間的なつながりや空間的なつながりに着目して考察している。 ・世界各地，各時代の諸事象の特徴を，他の地域や時代の諸事象と比較して適切に考察している。 ・政治，経済，社会，文化，生活など様々な観点から世界史の諸事象を捉え，広い視野からその歴史的意義を公正に判断している。 ・資料に基づいて追究し，考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	・収集した世界史についての諸資料を，客観性や公正さにも配慮した上で適切に取捨選択して活用している。	・世界史の大きな枠組みと流れを，地理的条件や日本史とも関連付けながら，理解している。 ・世界史的な知識を，時間的なつながりや空間的なつながりに着目して整理している。 ・政治，経済，社会，文化，生活など様々な観点から世界史の諸事象を理解し，その基本的知識を身に付けている。
評価方法	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題	・発問評価 ・提出課題 ・定期考査	・提出課題 ・定期考査	・提出課題 ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	序章　先史の世界	・アフリカで人類が誕生し，やがて現生人類に直接つながる新人が登場したことを理解する。 ・およそ 1 万年前に農耕・牧畜が始まり，自然環境とのかかわりの中で農耕文化に地域的特色が生じたことを理解する。	○	○	○	○	a: 人類が誕生し，自然環境に適応しながら農耕・牧畜を始めたことについて関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b: 人類が誕生し，自然環境に適応しながら農耕・牧畜を始めたことについて多面的・多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c: 人類が誕生し，自然環境に適応しながら農耕・牧畜を始めたことについて様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d: 人類が誕生し，自然環境に適応しながら農耕・牧畜を始めたことについて理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
	第1章　オリエントと地中海世界	1　古代オリエント世界 ・大河流域のメソポタミアとエジプトに文明が生まれ，周辺地域と交流が生じたこと，及びオリエント文明の特色を理解する。また，ペルシア人の活動によってアケメネス朝が西アジア全体を統一する統治体制をつくりあげたことを理解する。	○	○	○	○	a: オリエント文明の展開とペルシア人の活動を中心とした西アジア世界の特質と，その影響下に生まれた地中海周辺の都市文明について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b: オリエント文明の展開とペルシア人の活動を中心とした西アジア世界の特質と，その影響下に生まれた地中海周辺の都市文明について多面的・多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c: オリエント文明の展開とペルシア人の活動を中心とした西アジア世界の特質と，その影響下に生まれた地中海周辺の都市文明について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d: オリエント文明の展開とペルシア人の活動を中心とした西アジア世界の特質と，その影響下に生まれた地中海周辺の都市文明について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	第1章 オリエントと地中海世界	2 ギリシア世界 ・オリエント文明の影響を受けたエーゲ文明を経て，ポリスを中心とするギリシア文明が形成されたこと，及びギリシア文明がアレクサンドロス大王の遠征で西アジア一帯に伝えられたことを理解する。 3 ローマ世界 ・都市国家から出発したローマが大帝国を建設したこと，及びローマ帝国皇帝の理念やキリスト教の成立と展開が後のヨーロッパ世界につながることを理解する。 ・ササン朝がローマ帝国と対抗してペルシア文明を成長させ，その文明を東西に伝えたことを理解する。	○	○	○	○	a: 地中海周辺の都市文明を統合したローマ帝国，及びペルシア人の活動を中心とした西アジア世界について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b: 地中海周辺の都市文明を統合したローマ帝国，及びペルシア人の活動を中心とした西アジア世界について多面的・多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c: 地中海周辺の都市文明を統合したローマ帝国，及びペルシア人の活動を中心とした西アジア世界について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d: 地中海周辺の都市文明を統合したローマ帝国，及びペルシア人の活動を中心とした西アジア世界について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
	第2章 アジア・アメリカの古代文明	1 インドの古典文明 ・インダス文明が都市計画にもとづく都市文明であったこと，アーリヤ人が定住しマウリヤ朝，グプタ朝などを樹立した過程を理解する。 ・南インドにドラヴィダ系の王朝が成立し，海上交易で活躍したことを理解する。 ・バラモン教がヴァルナ制度と結びつき，後のカースト制度の枠組みとなったこと，及び仏教が成立し諸地域に伝播したが，南アジアではヒンドゥー教に吸収され衰退したことを理解する。	○	○	○	○	a: 南アジアで独自の宗教と社会制度を基盤とした文明が形成されたことについて関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b: 南アジアで独自の宗教と社会制度を基盤とした文明が形成されたことについて多面的・多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c: 南アジアで独自の宗教と社会制度を基盤とした文明が形成されたことについて様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d: 南アジアで独自の宗教と社会制度を基盤とした文明が形成されたことを理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	第2章 アジア・アメリカの古代文明	2 東南アジアの諸文明 ・南アジアと東アジアの中間地帯に位置する東南アジアが交易活動をさかんに展開したこと，東南アジアの諸民族が南アジア文明や中華文明の影響を受けながら，海上交易の拡大にともなって港市を形成し国家を誕生させたことを理解する。	○	○	○	○	a: 東南アジアの諸民族が南アジア文明や中華文明の影響を受けながら，海上交易の拡大にともなって国家を形成したことについて関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b: 東南アジアの諸民族が南アジア文明や中華文明の影響を受けながら，海上交易の拡大にともなって国家を形成したことについて多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c: 東南アジアの諸民族が南アジア文明や中華文明の影響を受けながら，海上交易の拡大にともなって国家を形成したことについて様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d: 東南アジアの諸民族が南アジア文明や中華文明の影響を受けながら，海上交易の拡大にともなって国家を形成したことを理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
		3 中国の古典文明 ・黄河･長江流域の新石器文化と殷･周が成立し，殷･周の時代に漢字など中華文明の重要な要素が現れたこと，春秋戦国時代の経済や文化の発展を理解する。 ・秦･漢帝国の時代に皇帝を中心とした統治体制が生まれ，中華文明に依拠する東アジア世界の骨格が形成されたこと，及び遊牧民の華北進出と華北住民の江南への移住がおこり，華北では遊牧民の定住化，均田制など新しい制度が生まれたことを理解する。	○	○	○	○	a: 東アジアの農耕地帯に成立した中華文明が，中央ユーラシアに台頭した遊牧国家と関係しながら，日本を含む東アジア世界を形成したことについて関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b: 東アジアの農耕地帯に成立した中華文明が，中央ユーラシアに台頭した遊牧国家と関係しながら，日本を含む東アジア世界を形成したことについて多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c: 東アジアの農耕地帯に成立した中華文明が，中央ユーラシアに台頭した遊牧国家と関係しながら，日本を含む東アジア世界を形成したことについて様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d: 東アジアの農耕地帯に成立した中華文明が，中央ユーラシアに台頭した遊牧国家と関係しながら，日本を含む東アジア世界を形成したことを理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	第2章 アジア・アメリカの古代文明	4 南北アメリカ文明 ・アメリカ大陸で独自の文化，文明が生みだされたこと，具体的には，メキシコ高原，中央アメリカ，アンデス地方で独自の農耕文明を基盤に都市文明が展開したこと，及びメキシコ高原にアステカ王国，アンデス地方にインカ帝国が成立したことを理解する。	○	○	○	○	a: アメリカ大陸で独自に発達した都市文明や国家について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b: アメリカ大陸で独自に発達した都市文明や国家について多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c: アメリカ大陸で独自に発達した都市文明や国家について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d: アメリカ大陸で独自に発達した都市文明や国家について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	1 草原の遊牧民とオアシスの定住民 ・中央ユーラシアの遊牧民とオアシス民は共存･共生の関係であったことを理解する。 2 北方民族の活動と中国の分裂 3 東アジア文化圏の形成 ・遊牧国家匈奴がオアシス都市の覇権をめぐって漢と長期の抗争を続けたこと，中央ユーラシアで遊牧国家突厥が成立したことを理解する。 ・唐帝国が支配体制を整え，周辺諸国と安定した関係を結び，東アジア世界と中央ユーラシア世界を含む政治的秩序を形成したこと，及び日本や新羅，渤海が唐の政治制度を取り入れ国家体制の整備を進めたことを理解する。	○	○	○	○	a: 中央ユーラシアに台頭した遊牧国家を中心にした中央ユーラシア世界の形成と，中央ユーラシア世界と東アジア世界との関係について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b: 中央ユーラシアに台頭した遊牧国家を中心にした中央ユーラシア世界の形成と，中央ユーラシア世界と東アジア世界との関係について多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c: 中央ユーラシアに台頭した遊牧国家を中心にした中央ユーラシア世界の形成と，中央ユーラシア世界と東アジア世界との関係について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d: 中央ユーラシアに台頭した遊牧国家を中心にした中央ユーラシア世界の形成と，中央ユーラシア世界と東アジア世界との関係を理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	第4章　イスラーム世界の形成と発展	1　イスラーム世界の形成 2　イスラーム世界の発展 ・イスラーム教の成立の背景と特質を理解する。 ・カリフの指導のもとのアラブ人ムスリムの征服活動の結果，広大な地域を支配するウマイヤ朝が成立し，アッバース朝のもとでイスラーム法にもとづく国家体制が確立したことを理解する。 ・交通路の安全が確保され，ムスリム商人の交易活動が活発化したことを理解する。 3　インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 ・アッバース朝の政治的衰退後も諸地域のムスリムの連携が維持されたこと，及びトルコ系民族がイスラーム世界に新しい動きをもたらし，イスラーム世界の拡大にはムスリム商人とスーフィー教団が重要な役割を果たしたことを理解する。 4　イスラーム文明の発展 ・融合文明であるイスラーム文明がヨーロッパや中国に与えた影響について理解する。	○	○	○	○	a：アラブ人とイスラーム帝国の発展，トルコ系民族の活動とイスラーム世界の拡大，海陸の交易網の形成とユーラシア諸地域間の活発な交流について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b：アラブ人とイスラーム帝国の発展，トルコ系民族の活動とイスラーム世界の拡大，海陸の交易網の形成とユーラシア諸地域間の活発な交流について多面的・多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c：アラブ人とイスラーム帝国の発展，トルコ系民族の活動とイスラーム世界の拡大，海陸の交易網の形成とユーラシア諸地域間の活発な交流について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d：アラブ人とイスラーム帝国の発展，トルコ系民族の活動とイスラーム世界の拡大，海陸の交易網の形成とユーラシア諸地域間の活発な交流について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	1 西ヨーロッパ世界の成立 2 東ヨーロッパ世界の成立 ・ビザンツ帝国は古代ローマの遺産を継承しつつも次第にギリシア化がすすんだこと，コンスタンティノープルの経済的繁栄について理解する。 ・スラヴ人が東ヨーロッパ各地に国家を建設し，ビザンツ文化やギリシア正教，カトリックを受容したことを理解する。 3 西ヨーロッパ中世世界の変容 ・ビザンツ帝国に対抗して西ヨーロッパ世界の独自性が確立されたこと，イスラーム勢力やノルマン人との対抗の中で封建社会が形成されたことを理解する。 ・西ヨーロッパ世界では，11～13世紀の生産力の向上を背景に拡大の動きが生まれ，14世紀以降，国王を中心とした中央集権化がすすんだこと，中世を通じたキリスト教の役割とイスラーム文明がヨーロッパ文明に与えた影響を理解する。 4 西ヨーロッパの中世文化 ・14～16世紀にかけて，人間の理性や感性を重視するルネサンスがおこったことを理解する。	○	○	○	○	a: 地中海世界の政治的統一性が失われた後に，キリスト教を共通の基盤とするヨーロッパ世界がそれぞれの地域性を保ちながら東西に形成され，展開していった過程について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b: 地中海世界の政治的統一性が失われた後に，キリスト教を共通の基盤とするヨーロッパ世界がそれぞれの地域性を保ちながら東西に形成され，展開していった過程について多面的・多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c: 地中海世界の政治的統一性が失われた後に，キリスト教を共通の基盤とするヨーロッパ世界がそれぞれの地域性を保ちながら東西に形成され，展開していった過程について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d: 地中海世界の政治的統一性が失われた後に，キリスト教を共通の基盤とするヨーロッパ世界がそれぞれの地域性を保ちながら東西に形成され，展開していった過程について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	第6章　内陸アジア世界・東アジア世界の展開	1　トルコ化とイスラーム化の進展 ・中央ユーラシアで遊牧国家突厥が成立したこと，遊牧国家ウイグルの崩壊後，パミール高原を挟む地域にトルコ系民族が移動・定住し，やがてイスラーム教を受け入れたことを理解する。 2　東アジア諸地域の自立化 ・ユーラシア東部から中国東北地方，華北一帯で契丹，女真が台頭し，宋と政治的・軍事的に対抗したこと，及び中国社会が宋代に産業や文化が発展し，商業都市が栄えたことを理解する。 3　モンゴルの大帝国 ・モンゴルが 13 世紀に広大な地域を支配していったこと，モンゴル帝国が元を中心とした諸ハン国の連合体に再編されたこと，日本が元寇の危機を乗り越えて貨幣経済を進展させたことを理解する。 ・14 世紀半ばのモンゴル帝国の解体が，日本や東南アジアの国家・社会の変容や再編を促したことを理解する。	○	○	○	○	a：ユーラシアの諸民族が，東アジア世界をはじめとするユーラシア諸地域の交流と再編に大きな役割を果たし，モンゴル帝国が成立・再編されていった過程について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b：ユーラシアの諸民族が，東アジア世界をはじめとするユーラシア諸地域の交流と再編に大きな役割を果たし，モンゴル帝国が成立・再編されていった過程について多面的・多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c：ユーラシアの諸民族が，東アジア世界をはじめとするユーラシア諸地域の交流と再編に大きな役割を果たし，モンゴル帝国が成立・再編されていった過程について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d：ユーラシアの諸民族が，東アジア世界をはじめとするユーラシア諸地域の交流と再編に大きな役割を果たし，モンゴル帝国が成立・再編されていった過程について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
二学期	第7章　アジア諸地域の繁栄	1　東アジア世界の動向 2　清代の中国と隣接諸地域 ・東アジアでは中華帝国を再現した明が商工業の発達により繁栄したが，16 世紀以降，北虜南倭によって衰退し，女真の清が建国され明にとって替わったこと，及び琉球や日本など冊封や朝貢にもとづく東アジアの政治秩序の再編が行われたことを理解する。 ・日本は幕藩体制下においても長崎，琉球，対馬，松前を通じて外の世界との関係が保たれていたことを理解する。 3　トルコ・イラン世界の展開 4　ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展 ・西アジアや南アジアではオスマン帝国，ムガル帝国などのイスラーム教の帝国が栄えたこと，及びこれらの帝国が海上に交易圏を形成し，強大な皇帝権のもとで官僚制が発達する一方，非ムスリムに対して比較的柔軟な統治を行ったことを理解する。 ・東南アジア島嶼部にイスラーム勢力が拡大して港市国家が成立し，ヨーロッパ諸国と競合して香辛料貿易で繁栄したこと，日本やアメリカ大陸から大量の銀がアジアの市場に流入し交易の活発化をもたらしたこと，東南アジア大陸部で農業に基盤を置く国家が交易にも進出したことを理解する。	○	○	○	○	a：14 世紀から 18 世紀までの西アジア，南アジア，東アジアの動向，及びそれぞれの地域の社会や文化の特質について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b：14 世紀から 18 世紀までの西アジア，南アジア，東アジアの動向，及びそれぞれの地域の社会や文化の特質について多面的・多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c：14 世紀から 18 世紀までの西アジア，南アジア，東アジアの動向，及びそれぞれの地域の社会や文化の特質について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d：14 世紀から 18 世紀までの西アジア，南アジア，東アジアの動向，及びそれぞれの地域の社会や文化の特質について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
二学期	第8章　近世ヨーロッパ世界の形成	1　ヨーロッパ世界の拡大 ・15世紀後半以降，ヨーロッパが対外進出を行い，アジア貿易への参入や銀の流入によりヨーロッパ経済が大きく成長したこと，アメリカ大陸ではアステカ王国，インカ帝国がスペイン人に滅ぼされ，先住民社会が大きく変容したことを理解する。 ・西ヨーロッパと東ヨーロッパとのあいだで経済的分業体制が成立したことを理解する。 2　ルネサンス 3　宗教改革 4　ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成 ・14～16世紀にかけて，人間の理性や感性を重視するルネサンスがおこったことを理解する。 ・封建社会の動揺などを背景に宗教改革がおこり，内乱や戦争を通じて主権国家体制が形成されたことを理解する。	○	○	○	○	a：15 世紀から 16 世紀までのヨーロッパ世界の動向，及びヨーロッパの社会や文化の特質について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b：15 世紀から 16 世紀までのヨーロッパ世界の動向，及びヨーロッパの社会や文化の特質について多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c：15 世紀から 16 世紀までのヨーロッパ世界の動向，及びヨーロッパの社会や文化の特質について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d：15 世紀から 16 世紀までのヨーロッパ世界の動向，及びヨーロッパの社会や文化の特質について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
	第9章　近世ヨーロッパ世界の展開	1　重商主義と啓蒙専制主義 2　ヨーロッパ諸国の海外進出 ・複数の主権国家が、互いに国富の増大を目指して重商主義政策をとり、植民地をめぐってヨーロッパの内外で争いを繰り返したこと，その過程で東欧では啓蒙専制君主が出現したことを理解する。 ・ヨーロッパ，アフリカ，アメリカを結ぶ三角貿易が発達し，大西洋世界が形成されたこと，ヨーロッパ勢力が世界の諸地域に進出し，重商主義にもとづく活発な経済活動と植民地争奪戦争が展開されたことを理解する。 3　17～18世紀ヨーロッパの文化と社会 ・科学革命，主権国家体制の成立を背景とした国際法，貴族社会を背景としたバロックやロココの芸術活動について理解する。	○	○	○	○	a：17 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の動向，及びヨーロッパの社会や文化の特質について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b：17 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の動向，及びヨーロッパの社会や文化の特質について多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c：17 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の動向，及びヨーロッパの社会や文化の特質について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d：17 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の動向，及びヨーロッパの社会や文化の特質について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
二学期	第10章　近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	1　産業革命 ・イギリスに始まる産業革命により産業資本主義が確立し，イギリスの自由貿易に対し遅れて産業革命に取り組んだ諸国は保護貿易で対抗したこと，イギリスでは産業資本家を中心とした自由主義が広まる一方で，労働運動や社会主義思想が生まれたことを理解する。 2　アメリカ独立革命 3　フランス革命とナポレオン ・18世紀の経済的変化や啓蒙思想を背景としてアメリカ合衆国の独立，フランス革命が発生したことを理解する。	○	○	○	○	a：18世紀後半から19世紀までのヨーロッパとアメリカの諸革命，及び社会の産業化と国民国家の形成が相互に関係しつつ進んだことについて関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b：18世紀後半から19世紀までのヨーロッパとアメリカの諸革命，及び社会の産業化と国民国家の形成が相互に関係しつつ進んだことについて多面的・多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c：18世紀後半から19世紀までのヨーロッパとアメリカの諸革命，及び社会の産業化と国民国家の形成が相互に関係しつつ進んだことについて様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d：18世紀後半から19世紀までのヨーロッパとアメリカの諸革命，及び社会の産業化と国民国家の形成が相互に関係しつつ進んだことについて理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
二学期	第11章　欧米における近代国民国家の発展	1　ウィーン体制の成立 2　ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生 ・ヨーロッパではウィーン体制下に自由主義・ナショナリズムが広がったことを理解する。 ・19 世紀後半のイギリスの繁栄やフランスの動向，クリミア戦争がロシアや東方問題に影響を与えたこと，ドイツ・イタリアで国民国家が形成されたこと，欧米諸国では公教育や軍隊制度を通じて国民意識が育成されたこと，及びアメリカ合衆国では南北の地域対立から南北戦争がおこり，南北戦争後は工業が躍進したことを理解する。 3　南北アメリカの発展 ・18 世紀の経済的変化や啓蒙思想を背景としてラテンアメリカ諸国の独立がおこったこと，アメリカ合衆国では領土拡張が行われたこと、南北の地域対立から南北戦争がおこり，南北戦争後は工業が躍進したことを理解する。 4　19世紀欧米の文化 ・19 世紀後半の科学技術の発達が工業化の進展を促し，人々の生活を急速に変容させたこと，及び欧米諸国では第二次産業革命によって資本の集中が進んだことを理解する。	○	○	○	○	a：19 世紀のヨーロッパ・アメリカ社会の産業化と国民国家の形成が相互に関係しつつ進んだことについて関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b：19 世紀のヨーロッパ・アメリカ社会の産業化と国民国家の形成が相互に関係しつつ進んだことについて多面的・多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c：19 世紀のヨーロッパ・アメリカ社会の産業化と国民国家の形成が相互に関係しつつ進んだことについて様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d：19 世紀のヨーロッパ・アメリカ社会の産業化と国民国家の形成が相互に関係しつつ進んだことについて理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
二学期	第12章　アジア諸地域の動揺	1　オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容 2　南アジア・東南アジアの植民地化 3　東アジアの激動 ・ヨーロッパ諸国が世界の諸地域に進出した結果，アジア諸国は工業製品の市場，農産物や原料の供給地とされ，ヨーロッパを中心とした国際的分業体制に組み込まれたことを理解する。 ・西アジアや南アジアにイスラーム教やヒンドゥー教の原初の姿や伝統に復帰しようとする動きが現れたこと，日本が明治維新により近代化をめざし，ヨーロッパ勢力の世界進出の中で日清戦争，日露戦争を戦ったことを理解する。	○	○	○	○	a：世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の対応，及び19世紀のアジアの特質とその中での日本の位置づけについて関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b：世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の対応，及び19世紀のアジアの特質とその中での日本の位置づけについて多面的・多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c：世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の対応，及び19世紀のアジアの特質とその中での日本の位置づけについて様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d：世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の対応，及び19世紀のアジアの特質とその中での日本の位置づけについて理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
三学期	第13章　帝国主義とアジアの民族運動	1　帝国主義と列強の展開 2　世界分割と列強対立 ・欧米諸国が世界各地に進出し，植民地や勢力圏の獲得競争を繰り広げたこと，及び世界的な労働力の必要性から人々の国際的移動が急速に拡大したことを理解する。 3　アジア諸国の改革と民族運動 ・アジア・アフリカで民族の解放・独立をめざすナショナリズムの運動が展開されたこと，アジア諸国では国内危機が深まり，体制を維持するための改革に迫られたが，それらの多くは失敗に終わり，社会や文化の変容を余儀なくされたことを理解する。	○	○	○	○	a：19世紀後半から20世紀初めまでの欧米諸国の工業化の進展にともなう国家・社会の変化及び帝国主義時代の世界の動向と社会の特質について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b：19世紀後半から20世紀初めまでの欧米諸国の工業化の進展にともなう国家・社会の変化及び帝国主義時代の世界の動向と社会の特質について多面的・多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c：19世紀後半から20世紀初めまでの欧米諸国の工業化の進展にともなう国家・社会の変化及び帝国主義時代の世界の動向と社会の特質について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d：19世紀後半から20世紀初めまでの欧米諸国の工業化の進展にともなう国家・社会の変化及び帝国主義時代の世界の動向と社会の特質について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
三学期	第14章 二つの世界大戦	1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア･アフリカ地域の民族運動 ・第一次世界大戦にいたる経緯とその総力戦としての性格，ロシア革命とそれによって生じたソヴィエト連邦が世界に与えた影響について理解する。 ・戦間期の世界で，アメリカ合衆国の国際的影響力が拡大し，ドイツやイタリアではファシズムが生まれ，日本では軍部が台頭し，ソ連ではスターリンの独裁が成立するなど，国家や社会のあり方が大きく変化したことを理解する。 ・第一次世界大戦後のアジア・アフリカでは民族運動が大衆的基盤を獲得し，それらが世界史の新しい流れをつくりだしたことを理解する。 4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 5 第二次世界大戦 ・世界恐慌の結果，各国で様々な恐慌対策がとられたことを理解する。 ・複合的な性格をもつ第二次世界大戦の戦場の広域化，核兵器の使用が膨大な犠牲をもたらしたことなどを理解する。	○	○	○	○	a: 第一次世界大戦から第二次世界大戦にいたる世界戦争の時代の国際社会の変遷と大衆社会の出現，及び20世紀前半の世界の動向と社会の特質について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b: 第一次世界大戦から第二次世界大戦にいたる世界戦争の時代の国際社会の変遷と大衆社会の出現，及び20世紀前半の世界の動向と社会の特質について多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c: 第一次世界大戦から第二次世界大戦にいたる世界戦争の時代の国際社会の変遷と大衆社会の出現，及び20世紀前半の世界の動向と社会の特質について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d: 第一次世界大戦から第二次世界大戦にいたる世界戦争の時代の国際社会の変遷と大衆社会の出現，及び20世紀前半の世界の動向と社会の特質について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
三学期	第15章　冷戦と第三世界の独立	1　戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 2　米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 ・第二次世界大戦後，アメリカ合衆国が西欧諸国への経済援助を強化して「対ソ封じ込め」を図り，米ソ両国がそれぞれ地域的集団防衛体制を樹立し，冷戦が生じたこと，及び冷戦が非ヨーロッパ地域にも拡大し，朝鮮戦争など様々な紛争がひきおこされたことを理解する。 ・西欧諸国や日本が経済復興をとげ，西ドイツや日本で高い経済成長が見られたことを理解する。 3　第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り 4　石油危機と世界経済の再編 ・第二次世界大戦後，アジア・アフリカの民族運動により，1960年代には植民地の大半が独立したこと，アジア・アフリカ諸国は第三世界として平和共存を模索するなど冷戦下の世界で大きな役割を果たし，先進国との経済格差は南北問題と認識されるようになったことを理解する。 ・ベトナム戦争や中ソ対立などにより米ソ両国の指導力にかげりが見え，国際政治は多極化に向かったこと，1970 年代の国際通貨体制の崩壊，二度の石油危機が欧米諸国や日本に経済的打撃を与えたことを理解する。	○	○	○	○	a：第二次世界大戦終結後の冷戦体制の始まりから，アジア・アフリカ諸国の独立，平和共存の模索，アジアやヨーロッパの経済成長による世界の多極化を経て1970年代にいたるまでの世界の動向について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b：第二次世界大戦終結後の冷戦体制の始まりから，アジア・アフリカ諸国の独立，平和共存の模索，アジアやヨーロッパの経済成長による世界の多極化を経て1970年代にいたるまでの世界の動向について多面的・多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c：第二次世界大戦終結後の冷戦体制の始まりから，アジア・アフリカ諸国の独立，平和共存の模索，アジアやヨーロッパの経済成長による世界の多極化を経て1970年代にいたるまでの世界の動向について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d：第二次世界大戦終結後の冷戦体制の始まりから，アジア・アフリカ諸国の独立，平和共存の模索，アジアやヨーロッパの経済成長による世界の多極化を経て1970年代にいたるまでの世界の動向について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
三学期	第16章 現在の世界	1 社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展 2 途上国の民主化と独裁政権の動揺 3 地域紛争の激化と深刻化する貧困 4 現代文明の諸特徴 ・EUやASEANなど地域統合や地域協力をめざす動きが世界各地で進行していること，パレスティナ紛争をはじめ，冷戦終結後の旧ユーゴスラヴィア内戦などの地域紛争が世界各地で頻発していることを理解する。 ・環境問題など地球世界の切実な課題が生じていることを理解する。	○	○	○	○	a: 1980 年代以降の市場経済のグローバル化や地球的諸課題，及び世界と日本の動向，社会の特質について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b: 1980 年代以降の市場経済のグローバル化や地球的諸課題，及び世界と日本の動向，社会の特質について多面的･多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c: 1980 年代以降の市場経済のグローバル化や地球的諸課題，及び世界と日本の動向，社会の特質について様々な資料を収集し，有用な情報を読み取り，図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d: 1980 年代以降の市場経済のグローバル化や地球的諸課題，及び世界と日本の動向，社会の特質について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。